

四国の災害伝承のためのカルタづくりについて ～どのように災害教訓を伝承していけばよいのか？～

岡本創¹⁾，松重摩耶²⁾，上月康則²⁾，吉田博³⁾，塩川奈々美³⁾，松尾裕治⁴⁾

1) 徳島大学理工学部社会基盤デザインコース， 2) 徳島大学環境防災センター， 3) 徳島大学高等教育研究センター， 4) 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

1. 背景，目的

従前より，災害伝承の重要性は指摘されており，平成 24 年の災害対策基本法の改正により，住民の責務として災害教訓の伝承が，国及び地方公共団体の努力義務として規定された¹⁾。しかし，近年の社会基盤整備により災害発生頻度が少なくなった結果，地域の災害の実像をイメージ学習が難しくなっているとの指摘もある²⁾。そこで，筆者らはこれまでに，四国の災害に関する言い伝えや体験談をまとめた「四国防災八十八話」を題材に普及啓発や防災教育を行ってきた。本研究では「①どのような災害の話が記憶に残るのか？」「②記憶に残るためには？」「③伝承されやすい話の特徴は？」についてヒアリング調査し，災害教訓の適切な伝承方法について検討することを目的に研究を行った。

2. 方法

徳島版四国防災八十八話マップを題材に，国府中学校防災倶楽部の生徒を対象に計 3 回（7/29，7/30，9/7）のカルタづくり WS（1 回 2,3 時間）を実施した。本マップには徳島県の江戸時代から平成まで，地震・津波，洪水，高潮，土砂災害，渇水に関する教訓や体験談が 29 話描かれており，例えば第 1 話は「吉野川の洪水警鐘高地蔵」に関するものである（図 1）。本 WS の狙いは、『災害の話に関するカルタの読み句を考えることで，徳島の災害教訓に興味関心を持ち，災害伝承を行っていききたい気運が醸成されること』である。また 3 回の WS を実施した後，約 2 か月後（10/25，10/28）に半構造化インタビューを行い，研究目的の①②③について検討を行った。インタビューでは記憶のフェーズを，【1】生活の中で思い出した，

【2】「覚えているカルタの読み札や話は？」と聞かれて思い出した，【3】ヒント（カルタの読み札）を提示し思い出した，の 3 段階³⁾に分けて尋ね，その後，【4】今日までの生活の中で，親や友人に話の内容を伝えたカルタがあるかを尋ねた。なお，ヒアリング対象者は WS を体験した生徒（全 13 人）のうちの 6 人である。



図 1 第 1 話吉野川の洪水警鐘高地蔵さん

3. 結果・考察

インタビューの結果を図 2 に示す。【1】生活の中で自然と思い出したことのあった話は第 1 話を含む 4 話であった。その理由として第 1 話は「国府町はやっぱ高地蔵はあるんで」「私が通っている通学路にちょっと高めのお地蔵さんがあって，あ，こういう意味だったんだというのを改めて見て」と，自分の地域にあって，普段目になっていたことが挙げられていた。また第 14 話は「子供の頃から小学校の道德の教科書とか載ってたんで，あんなんあったなって」など，学校で習ったことに関連づけられたことが理由にされていた。次に，【2】ヒアリング時に覚えていた話は第 3 話や 5 話を含む計 8 話あった。その理由として第 3 話は「結構一緒に話したりして面白かって覚えてて」「いろんなことを想像でみんなで話し合っていて，いろいろとしたんで印象に残っています」と回答され，カルタづくりの過程において，当時の様子を想像し，仲間と楽しく話したことが理由

に挙げられていた。なお、【3】 ヒントを提示し思い出した話の数は 29 話中、計 22 話あり、【1】【2】

【3】 いずれにおいても回答がなかった話は 4 話あった。

最後に、【4】 実際に伝承がなされたカルタは 6 種類あって、そのうち最も多かったのは第 14 話であった。第 14 話は、全 29 話の中で唯一の伝説であるが、大地震によって島が沈む可能性があること、地震の前兆を察知したらすぐに逃げるといったことを伝えている。特に「鹿の面が赤くなると地震が起こる」という内容が、多くの生徒の記憶に印象に残り、他者に伝えられたものと思われる。

4. まとめ

徳島県内の四国防災八十八話を題材にしたカ

ルタづくりWSを通して、自分の地域で日常的に目にするものや、他教科で同様の題材が取り上げられることなどが扱われた話題は生徒の記憶に残りやすいことが確認できた。また、WS中に災害当時のことに想像を膨らませ、仲間と話し合うことで記憶に定着しやすいという示唆を得ることもできた。今後は他県の中高生にも、同様の災害教訓に関するヒアリングを行い、適切な災害教訓の伝承方法について考察を深める予定である。

謝辞：本研究は一般社団法人四国クリエイト協会と、2024 年度徳島大学研究クラスタの支援で行われたものである。

参考文献

- 1) 総務省：地域における住民の防災意識の向上(災害教訓の伝承)に関する調査結果等，2024
- 2) 松尾裕治：四国に伝わる災害に関する言い伝えからの防災術の抽出と活用に関する考察，2010
- 3) 日本新聞協会：記憶のカギは自分ごと化ドライバー，2013

【1】 生活の中で思い出した 【2】 覚えていた 【3】 ヒントで思い出した 【4】 伝えた



図2 カルタづくりWS後、約2か月後に記憶に残っていた話